

NPO 法人コスモ夢舞台

フクロウだより

Vol.10
第1号



2019年1月18日

<事務局から>

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

今年の豊実、カセン（火仙）さんの来訪（1/13）とともに始まったようです。「おかえりなさい！」と迎える佐藤さんとマキ子さんの笑顔に、我々も明るい気持ちになります。（詳細はHPの〈コスモ now〉をご覧ください。）

さて、2019・イベント日程表には、7月に「国際交流フェスタ」が新たに加わりました。佐藤さんの構想では、“世界の若者たちとアートで過疎の集落を元気にしていこう”ということになります。

昨年の外国人ウーファーや「ふるさとワーホリ」の日本の若者の受入れ実績を背景に、国際交流を促進するイベントでは、火仙さんの果たす役割は大きなものになりそうです。

我われも、「国際交流フェスタ」が「里山アート展」と並ぶコスモ夢舞台の二大イベントとして定着するように努力していきたいと考えています。

ところで、阿賀町豊実地区は例年になく雪が少ないようですが、今年も「スコップ・ボランティア」が開催されます。新潟県の地域政策課雪対策室と阿賀町役場と組んで NPO 法人コスモ夢舞台がその受け入れ窓口となります。

昨年も全国各地からボランティアの皆さんが参集され、交流の輪が広がりました。行政と一体となった「スコップ・ボランティア」は、我々にとってまたとない広報活動のチャンスでもあります。

皆さまのご協力参加をよろしくお願いいたします。

（森 紘一）

<直近のイベント予定> -----

○スコップ・ボランティア 2019年2月2日（土）～3日（日）阿賀町豊実地区
（降雪量によって、開催日の変更があります。）

詳細問あわせ：0254-96-2003

○味噌づくり 2019年3月9日（土）～10日（日）8～12時

石夢工房と周辺（2018年度の最終イベント）

2019. 1. 25

思うこと

佐藤賢太郎

コスモ夢舞台の過去、現在、未来をみても、事を運ぶには実行しないと成就しない。いくら喋れてもそれは私の評価に値しない。話すことは大切であるが、実行が伴わない言葉は薄っぺらで聴きたくもない。

私は今必要に迫られて、雪降るなか車庫を作っている。勿論一人ではできない。火仙や野口君と一緒にですが、私はそこでその人間を見る。

車庫の作り方を直に見て火仙がしきりに感心する。そのあらわれとして「はい先生」という。うるさいくらいである。少し「はい先生」を少なくしてもらいたい。そう指導しようと思うが、おそらく彼の人生でこのような70代の人間を見るのは初めてであろう。

さて、車庫をどのように作るかである。少々過ぎると思う人もいると思いますが、私が元気で生きられる時間は限られている。

火仙と私は橋の下から、あるものを生かして運ぶ。そこから車庫づくりは始まる。チェーンソーなど危険な道具を使うところは私がする。寸法が違ったら、あるものを生かして使えばいい。釘が長かったら工夫する。この釘の長さが合わないとは言わない。考えることだ。

寒かろうと、やると言ったら気合でやる。そして、総合的な創造力が必要である。そこには薄っぺらな言葉は通用しない。

お金は必要だ。お金を稼がないとできないと言うが、私はお金が少なくともこの総合力があるからできると思う。必要に迫られると不思議なことに人も物も集まる。そのことに感謝することを忘れてならないと感じている。

2019. 1. 17

国際交流フェスタ

佐藤賢太郎

今年、国際国流フェスタを開催予定です。新潟県の文化振興財団の助成金支援があってもなくても実施したいと思います。以下、その趣旨を述べます。

趣旨

世界各国から人材を集め、アートを中心としたイベントを開催します。ここは人口減少が著しい過疎地域ではありますが、毎年多くの外国人がコスモ夢舞台にお出でになります。昨年は20人です。そして、「ふるさとワーキングホリデー」の日本の若者も大勢集まるスポットであります。

そこで、外国人と日本人の若者を佐藤賢太郎が指導して、独創性あふれるアートを創案していただき、作品を作ります。

「アートとは何か」、そしてなぜそのような作品を制作したのかを話し合うシンポジウムも設けます。日本人と外国人の考え方の違いなども比較してみようと考えています。“アートの過疎の集落を活性化させよう”をスローガンとします。

参加対象

10人～15外国人&日本人（20歳から40歳）

参加者への支援

制作材料費・食事・宿泊など

作品内容

立体造形、書、絵画、等

展示会場

山林、畑、田んぼ

期間

7月14日～8月15日（制作過程から展示）

（7月7日～14日制作ディスカッション・指導）

宿泊場所

借り家（空き家対策を兼ねて借り入れた民家を修復、フル活用します）

期待される効果

1. 過疎の町を活性化する一大イベントとして定着させる
2. 世界と日本の若者たちの国際交流・親善を促進する
3. 若者に生き方や考え方を見直すチャンス与える

平成 31 年 1 月 吉日

会員各位

NPO 法人 コスモ夢舞台

会計 大塚秀夫 渡辺美紀

平成 31 年コスモ夢舞台会費のお願い

謹賀新年 旧年中は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

会員の皆様が、新しい年を健やかに迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。昨年は、草津白根山の噴火に始まり、福井での記録的な大雪、大阪での地震など予期せぬ天災に見舞われました。猛烈な台風が上陸しました。一日も早い復興が進むことを心よりお祈り申し上げます。

一方、4 月 30 日には今上天皇が退位され、翌 5 月 1 日に新天皇が即位されると元号も平成から新元号へと変わります。新潟日報新聞に、『私が提案！新元号』に阿賀町観光協会から依頼を受け、彫刻制作に励む佐藤賢太郎さんが紹介されました。

佐藤さんは阿賀町のイメージは世俗を離れた平和な世界を意味する「桃源郷」。自然と共生するライフスタイルに外国人ら多くの若者が豊実を訪れるようになり、阿賀町豊実の魅力が芽吹きはじめたことから「桃牙(とうが)」と新元号を提案。

新しい時代を迎える本年、この国のさらなる発展を願い、地域の皆様とともに自然の豊かな里山に桃源郷を創って行きたいと思っております。

つきましては、下記の通り会費納入を賜り、活動を支援していただきたくお願い申し上げます。出費多端の折とは存じますが、これまでのご協力に感謝を申し上げますとともに、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

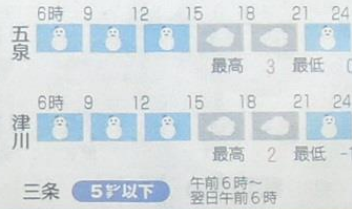
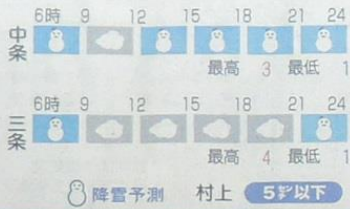
会 費	12,000 円
振 込 先	郵便局(ゆうちょ銀行)にて次の総合口座に振り込んでいただくこととなります。 ゆうちょ銀行口座間の送金(電信振替ATM)は無料。
加入者名	特定非営利活動法人コスモ夢舞台
口座番号	11250 17768461

ただし、この口座を他金融機関から郵便局(ゆうちょ銀行)に振込む場合、次の内容をご指定ください

【店名】一二八(読み イチニハチ)

【店番】128 【預金種目】普通預金 【口座番号】1776846 に変わります。

第3種郵便物認可



五泉支局 0250(42)3053
FAX (42)3098
村上支局 0254(53)
FAX (53)
三條総局 0256(33)0408
FAX (33)3347
津川支局 0254(92)2148
FAX (92)2681
新発田支 0254(22)
FAX (26)

降雪予測 村上 5℃以下 三條 5℃以下 午前6時～ 翌日午前6時

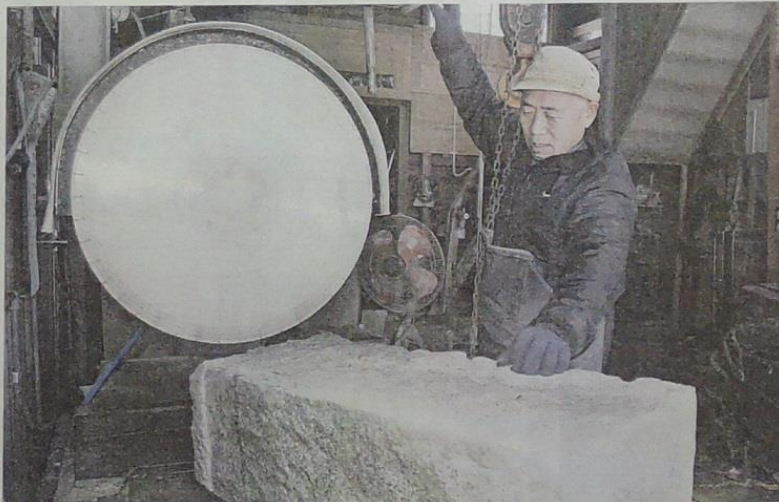
私が提案！新元号

桃芽

阿賀町のイメージは世俗を離れた平和な世界を意味する「桃源郷」で、桃の一字を取った。自然と共生するライフスタイルに魅力を感じ、外国人ら多くの若者が私たちの民俗を訪れるようになった。故郷の魅力が芽吹こうとしているところから「桃芽」とした。

農家民宿営む彫刻家 佐藤 賢太郎さん(70)＝阿賀町＝

阿賀町観光協会から依頼を受け、制作に励む佐藤賢太郎さん＝阿賀町豊実



アート軸ムラに活気を

阿賀町(旧鹿瀬町)船渡集落は、JR磐越西線の福島県境の駅、豊実駅近くに

亥年 わたしの夢

◇ 6 ◇

ある。山間部の集落で彫刻を制作しながら、妻のマキ子さん(69)と農家民宿を営む。コメ作りに励み、稲刈り後の田んぼでは、廃材を生かした作品を飾る「里山アート展」を毎年開催して

清流などと自然の豊かさを再認識した。両親の介護もあり、2006年にUターンした。「都会よりお金は稼げなくなるが、何もないとここに夢を描こうと思っただ」と振り返る。

行動する際の信条は「面白いかどうか。感動する生き方をしたい」と至ってシンプル。思いついたら廃屋をギャラリーにしたり、まきでたく風呂を作ったりする。自作の絵などを飾って空間に彩りを添える。

今は列車や山々を眺めるための広場づくりに夢中だ。「男のロマンは女の不満」とこぼしつつ、理解を示してくれるマキさんに頭が上がらない。

過疎化を逆手に取って4軒の空き家を借り、自前で改修して宿泊所を利用して。都会の中学生の体験

旅行を受け入れるほか、人間関係に悩む若者も訪れる。最初は食欲がなかった人でも、農作業で体を動かすうちに元気を取り戻すという。

外国人の受け入れにも積極的だ。食事と宿泊場所を無料で提供する代わりに、農作業などを手伝ってもらう。世界各国からネットで申し込みがあり、昨年は20人の外国人がそれぞれ2週間程度滞在した。「心が通じれば大丈夫」と、日常会話には簡単な英語で済ませる。

夫婦ともがんとを患ったのを契機に、無農薬のコメ作りに取り組みなど野菜中心の食生活に改めた。来訪する外国人には菜食主義者も多いが、同じ食卓を囲んでいる。

夢は移住者を増やし、山間部のムラに活気を取り戻すことだ。13日にはカナダ人の青年が訪れた。これまでに2度滞在しており、佐藤夫妻の生き方に共鳴して阿賀町で暮らすことを希望しているという。

「外国人が多く住むムラにしたいね。今年は変化が起き、忙しくなりそうだよ」。明るい兆しに目を細めた。